

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092100041		
法人名	医療法人 社団 親和会		
事業所名	グループホーム つつじの丘 (ユニット名:ひだまり)		
所在地	嘉麻市牛隈2510番地98		
自己評価作成日	平成27年2月15日	評価結果確定日	平成27年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&jigyosyoCd=4092100041-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1 九勸筑紫通ビル9階		
訪問調査日	平成27年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の思いを大切に、安心してその人らしい生活が続けられるようにやさしく見守り、入居者様の思いに寄り添った支援を行うように努めている。
地域との関わりを大切にし、ボランティア実習の積極的な受け入れや学校行事などにも参加させていただいたり、地区のクリーン活動へも入居者と共に参加し地域の一員として日常的に交流できるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年の12月に就任した管理者が、理念『その人らしさ・地域の人々と交流・安全、安心、安楽なサービス』を基に職員と共に入居者が安心して生活できるような取り組みを行い、地域との交流に努めている。職員との関係も良く、職員の悩みや相談にも応じ、職員間のコミュニケーションを保たれている。近くに小学校があり、入居者が職員と一緒に登下校の小学生に挨拶見守りを実施している。地域の自治会にも加入して、清掃活動や地域の行事にも参加している。入居者で外に出られる方の居室については、危険防止のために、居室窓にブザーを付けて安全確認が出来るように工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症対応型共同生活介護ということを踏まえた理念を掲げ、職員の目に留まる場所に掲示し職員も理念を熟知し実践につなげる努力を行っている	事業所の理念を職員がいつでも確認できるように掲示し、日常の支援にあたっている。業務中で悩んだことや分からないことなどについては、管理者が職員の相談役となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や学校行事への参加を行っている。中学校の職場体験やボランティア実習等の受け入れも積極的に行っている。地区・組内の行事への協力もおこなっている	自治会に加入し、介護相談窓口として地域と交流している。また、地域活動として、清掃活動、七夕会、駆け込み110番や交通整理を行い、学校行事などにも入居者と共に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事の参加等を通じ認知症入居者と接して頂くことでご理解を頂く努力を行ったり、ご自宅での介護でお困りの方にアドバイスや支援を行うなどの活動も行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市担当者、地域住民、民生委員、家族の方々に参加して頂き、年間行事や月ごとの行事の報告を行い、意見を伺いサービスの向上に活かしている	運営推進会議は、市の担当者、地域住民、家族の方の参加により開催し、事業所の現状報告や行事報告、今後の計画などを報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より市の担当者との連絡を行ったり運営推進委員会へ参加をして頂くなど、ホームの運営の相談や事故の報告等を行い協力関係が築けるように取り組んでいる	市の担当者へは、日頃より、介護に対する相談や報告などを行っている。施設への訪問や見学なども声掛けしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に廃止に関する研修への参加と職員へのホーム内研修を行い身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。玄関の施錠に関しては安全面を優先に考え必要に応じて行うこともある	身体拘束は行わないこととしている。家族への説明は、入居時に行い理解して頂いている。普段は玄関を施錠していないが、感染症が流行する時期には家族に同意を得て、一時的に施錠している。また、職員へは研修を通じて周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアルを整備し管理者を中心に虐待が見過ごされないように注意し防止に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修への参加、参加した職員によるホーム内での勉強会を行い必要性や活用方法の理解に努めている	権利擁護・成年後見制度を対象とする入居者は現在はいない。今後は、ご家族の状況により相談を受けることが考えられるため、研修や勉強会を通じて職員一同が共有できるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、家族に対し契約書及び重要事項の内容のご理解と納得をして頂けるようにしている。契約書や重要事項のないよう変更時や疑問があるときには再度説明を行い同意を頂くようにしている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に意見や苦情の窓口を明記してい、ユニット毎の玄関横に意見箱を設置している。またご家族との連絡ノートを各部屋に置き意見や要望などを記入できるようにしている	ご家族からの意見・要望は、面会時に確認したり、居室内の連絡ノートに記載をお願いしている。家族に対して、いつでも相談できるようにしており、家族からの意見や要望などを、気軽にお知らせくださいと伝えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼やホームカンファレンス等で職員の意見を聞き運営に反映させている。また職員個別に面談を行い個人的に意見を言いやすい雰囲気づくりを心掛けている	職員からの意見や要望等を言いやすい環境をつくるため、気づいた時点で職員に対して声掛けを行っている。不満や態度に現れることが見受けられた場合には、個人面談を行い少しでも心を和ませるように工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人ひとりがやりがいや必要とされている人材であるという思いで働ける職場の環境づくりや労働条件の整備に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し活き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	職員の募集・採用については、年齢や性別を理由に採用対象から排除せず職員の希望に沿った勤務体制にしている	職員採用の際は、優しさ、人間味、清潔感を重視している。介護サービスの難しさ、楽しさを理解して支援できるよう教育している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	入居者に対する人権の尊重は理念として掲げて協同空間にいつでも目に付くように掲示している入居者、家族の思いを大切にしその方らしい生活が行えるよう支援する努力を行っている	人権尊重・啓発活動については、職員研修を通じて、日々の支援の中で対応している。利用者への声掛けは、苗字で呼ぶように心掛けて、職員で互いに気を付けている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量に応じた研修を受ける機会を法人内外で確保している。特に施設内での個別演習は必要に応じ頻回に行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への加入や市主催の地域連携協議会への参加など積極的に取り組んでいる。近隣のグループホームの訪問や情報交換も行い質の向上に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に当たっては家族、本人に施設見学をして頂いたり自宅や病院等に出向き不安や要望に耳を傾けコミュニケーションを図っている。入院先や在宅のケアマネジャーとの連携も十分に図り、個人情報の保護に留意しながら情報収集を行っている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時より本人、家族の困っていることや不安や要望に耳を傾けてコミュニケーションが図れるように努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族やこれまでに関わりのあったサービス機関より個人情報に考慮して情報収集を行い、センター方式に沿ったアセスメントを行ってより良い支援につながるように努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向を考え、できることややりたいことを見極めて、調理や掃除、洗濯等を職員と一緒に楽しく安全に行えている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に本人を支えることができるように、ご家族にも協力して頂けることはお願いしている。また、いつでも面会や一緒に外出ができるようにできる限りの支援を行っている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来易いように環境を整えたり、ご本人の希望や家族の意向があれば馴染みの場所にドライブに行くなどしている	利用者が希望する馴染みの場所や行きたい場所へ外出支援を心掛け、家族へ事前に確認を取り、許可を得て実施している。場所によっては家族へ協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビングで体操やレクリエーションを行ったり音楽をかけたりして利用者同士が孤立せず関わりをもてるようにしている。食事やソファでくつろいでいる時は入居者同士で会話をしたり、職員が会話の橋渡しを行うなどの支援を行っている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した本人、家族の悩みや相談を聞いたり長期入院の方には時折お見舞いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の希望や思いをケアプランに入れそれに沿ったケアを職員が把握し努めている。	入居時には一人ひとりの要望、希望を本人、家族から聴き取り、センター方式を利用して記録している。日頃から、ケアプランにつなげる様に努力している。	本人、家族の意向を聞きセンター方式を活用する事でケアプランの反映につながる。意思疎通困難な方は表情や日々の行動を把握し本人の視点に立ち話し合いが出来る事を期待したい。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し一人ひとりのこれまでの生活環境やサービス利用の経過等の把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録や申し送りにより一人ひとりの心身状態、一日の生活状況を観察し現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度介護計画の評価を行い必要に応じてプランの見直し等行っている。又急を要する時はその都度スタッフ、家族とモニタリングしケアプランを作成している。	3ヶ月に一度、計画担当者が介護計画を作成している。変化がある時には、見直しを行い、介護計画の変更を行っている。	介護計画を共有できるように個人ファイルに管理している。日々の行動その方の暮らし方をモニタリングしプランに取り組んで行く事でその人らしい介護計画が作成出来る事に期待したい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個人記録に記入し情報を共有して申し送りや意見交換を行い介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況に応じ面会は早朝や夜間でも快く応じるようにしている。併設のデイサービスでの交流も行い、入居者の楽しみにつながっている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の介護相談員の訪問を定期的をお願いし入居者の相談等を聞いてもらっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿ったかかりつけ医に受診又は往診をお願いしている。	2週間に1回、往診が行われている。かかりつけ医に家族と受診する利用者もいる。重度で送迎が困難な場合は、送迎を行い、医師からの指示、薬の変更等は記録に残し職員に申し送り共有に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の記録や体温表に目を通し又、本人の顔色や動きを見て異常が無いか観察を行い必要時看護職に相談し適切に受診や看護が受けられるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後入院先の看護師やソーシャルワーカーと連絡を取り情報交換や相談に努めている。面会にも行き情報収集を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に入所者の容態が重度化した場合における対応指針の説明を行い対応出来るようにしている。	重度化や看取りの説明は行っているが、看取りについては現在、体制が整っていないことを伝えている。契約書・重要事項説明書には、緊急時の対応の手順を確認できる様に記載している。本人・家族が安心と納得出来るケアに取り組んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受けたり職員が数名おり急変時の対応も掲示している。初期対応の訓練等は定期的に行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火避難訓練を行い職員が対応出来るようにしている。消防署にも協力していただけるように連絡を取っている。	防災避難訓練は、消防署立ち会いのもと、施設だけで行う訓練を年に4回実施している。住宅街であり近隣の方の協力、呼びかけに取り組んでいる。	近隣の声掛けを行い地域住民代表の方に協力を得て協力体制を作る。どこから火災が起こったかで避難する場所が違う事を想定するなど、定期的な訓練を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を人生の先輩である事を念頭に人格を尊重し言葉掛けやケアに気をつけている。	社会福祉協議会で行われる認知症の研修に参加した。職員の考えが変わり職員教育につながった。今後は職員への接遇についての教育を行っていきたいとのことである。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でどちらが良いか希望を聞いたり好きか嫌いかなど自己決定できる場合は本人に選んで頂いている。出来ない人には表情など見て一人ひとり対応している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で一人ひとりの体調やその日の気分を確認しながら希望に沿った暮らしが出来るように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分のお気に入りの洋服や家族が買ってきた服を着て頂き日中は洋服で過ごし夜は寝衣を着用して頂いている。外出時は自分に合ったおしゃれをして出掛けられるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態を見ながら調理の準備や盛り付けなど一緒に行ったり、配膳や引き膳の手伝いをして頂いている。	昼食時、テーブルごとに職員と一緒に食事をし会話を楽しんでいる。食事介助の利用者は、本人のペースに合わせゆっくりと食事を楽しんでいる。おやつ作りには利用者の希望等を聞き、職員と一緒に作ることがある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のカロリー計算をした食事を提供し食事量、水分量のチェックを行い、水分量の少ない利用者やその時の、健康状態に応じて水分補給をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い一人で上手く出来ない利用者には自分でした後再度確認し必要時介助にて口腔ケア援助をしている。義歯はポリドントにつけ清潔を保っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排尿パターンを把握し声掛けや誘導してトイレにて排泄が出来るように支援している。	排泄を失敗して入居者が嫌な気持ちにならないよう、排泄の自立支援を行っている。現在汚される方はいない。排便の自立支援は、日中に排泄できるに様に誘導し成功している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を軟菜にし食べやすいように工夫したり体操時に参加の声掛けをし一緒に運動を行っている。トイレ時腹部のマッサージ等で便秘の予防にも取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	二日に一回の割合で入浴を行い本人の希望に沿えるように考え対応しているが常に希望通りとは行かない。又、失禁などある場合はその都度必要に応じて対応している。	入浴を拒否される方は本人の意志を尊重しつつも会話の中で自分で入る様に誘導するなど声掛けを行っている。入浴剤を利用したり季節の香り(ゆず湯、菖蒲湯など)等を取り入れ楽しく入浴ができる工夫を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせ自由に休息できるようにしている。夜間眠れないときは会話をしたりして安心できるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋に目的や副作用が記されているのでカルテに綴り確認できるようにしている。又頓服薬を服用するときは状態変化の確認に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるようにケアプランに反映し役割、楽しみごと、散歩などで気分転換が出来るように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周りの散歩やドライブに出掛け花見、紅葉狩りや花火、お雛様などを見物に出掛けたり家族といつでも外出できるように支援している。	以前は、遠方に出かけていたが、現在は重度化が進み近隣の花見や散歩等が多くなった。家族が訪問して外出することもある。出来る限り希望に添える様に努めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事で買い物に出たときは声掛けなど行い自由に買い物が出来るようにしている。必要なお金は家族の了解を得てホームで立て替え日常は現金を所持されていない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くことはしないが本人に来た手紙は渡し家族からの電話は本人につなが自由に話せるようにしている。希望があればホームの電話を使い掛けている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁に絵や入居者の作成した手工芸作品を飾ったり、季節感のあるものを配置するなどの工夫を行い。施設内の壁の配色等もやわらかな色にしている。採光や喚起にも考慮し空気清浄機の設置も行っている。	ホールの壁には利用者の作られた季節作品を展示している。雰囲気も良く、広い空間でゆっくりと過ごすことができる。家族からの依頼で雛飾り(布で作った壁掛け)を飾ってほしいと言われ壁に飾ってあった。空気清浄機を設置し室内の異臭も無く居心地よく過ごすことができる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いて自由に使えるようにしたりコタツを準備して気の合う者同士が楽しく話せるようにしている。一人で過ごせるように居室はいつでも使えるようになっていく。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスの上に家族の写真や、飾り物を置いて居心地良く過ごせるようにしている。寝具等も使い慣れたものを私用して頂いている。	壁が汚れたり、傷ついた時点で張り替えている。各部屋ごと壁紙が違い暖かみのある色や模様が使われていた。壁やタンスの上には、作品を飾られたり家族が壁にかわいいシールを貼って楽しい空間を演出して家族も楽しんでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室には名前を表示し廊下周りを含め手すりを設け安全に歩行できるようにしている。又、居室からホールが見渡せるようにしておりホーム内はバリアフリーになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092100041		
法人名	医療法人 社団 親和会		
事業所名	グループホーム つつじの丘（ユニット名:そよ風）		
所在地	嘉麻市牛隈2510番地98		
自己評価作成日	平成27年2月15日	評価結果確定日	平成27年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4092100041-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	平成27年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の思いを大切に、安心してその人らしい生活が続けられるようにやさしく見守り、入居者様の思いに寄り添った支援を行うように努めている。
地域との関わりを大切に、ボランティア実習の積極的な受け入れや学校行事などにも参加させていただいており、地区のクリーン活動へも入居者と共に参加し地域の一員として日常的に交流できるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症対応型共同生活介護ということを踏まえた理念を掲げ、職員の目に留まる場所に掲示し職員も理念を熟知し実践につなげる努力を行っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や学校行事への参加を行っている。中学校の職場体験やボランティア実習等の受け入れも積極的に行っている。地区・組内の行事への協力もおこなっている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事の参加等を通じ認知症入居者と接して頂くことでご理解を頂く努力を行ったり、ご自宅での介護でお困りの方にアドバイスや支援を行うなどの活動も行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市担当者、地域住民、民生委員、家族の方々に参加して頂き、年間行事や月ごとの行事の報告を行い、意見を伺いサービスの向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より市の担当者との連絡を行ったり運営推進委員会へ参加をして頂くなど、ホームの運営の相談や事故の報告等を行い協力関係が築けるように取り組んでいる		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に廃止に関する研修への参加と職員へのホーム内研修を行い身体拘束を行はないケアに取り組んでいる。玄関の施錠に関しては安全面を優先に考え必要に応じて行うこともある		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアルを整備し管理者を中心に虐待が見過ごされないように注意し防止に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修への参加、参加した職員によるホーム内での勉強会を行い必要性や活用方法の理解に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、家族に対し契約書及び重要事項の内容のご理解と納得をして頂けるようにしている。契約書や重要事項のないよう変更時や疑問があるときには再度説明を行い同意を頂くようにしている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に意見や苦情の窓口を明記してい、ユニット毎の玄関横に意見箱を設置している。またご家族との連絡ノートを各部屋に置き意見や要望などを記入できるようにしている		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼やホームカンファレンス等で職員の意見を聞き運営に反映させている。また職員個別に面談を行い個人的に意見を言いやすい雰囲気づくりを心掛けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人ひとりがやりがいや必要とされている人材であるという思いで働ける職場の環境づくりや労働条件の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し活き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	職員の募集・採用については、年齢や性別を理由に採用対象から排除せず職員の希望に沿った勤務体制にしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	入居者に対する人権の尊重は理念として掲げて協同空間にいつでも目に付くように掲示している入居者、家族の思いを大切にしその方らしい生活が行えるよう支援する努力を行っている		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量に応じた研修を受ける機会を法人内外で確保している。特に施設内での個別演習は必要に応じ頻回に行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への加入や市主催の地域連携協議会への参加など積極的に取り組んでいる。近隣のグループホームの訪問や情報交換も行い質の向上に努めている		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に当たっては家族、本人に施設見学をして頂いたり自宅や病院等に出向き不安や要望に耳を傾けコミュニケーションを図っている。入院先や在宅のケアマネジャーとの連携も十分に図り、個人情報の保護に留意しながら情報収集を行っている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時より本人、家族の困っていることや不安や要望に耳を傾けてコミュニケーションが図れるように努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族やこれまでに関わりのあったサービス機関より個人情報に考慮して情報収集を行い、センター方式に沿ったアセスメントを行ってより良い支援につながるように努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向を考え、できることややりたいことを見極めて、調理や掃除、洗濯等を職員と一緒に楽しく安全に行えている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に本人を支えることができるように、ご家族にも協力して頂けることはお願いしている。また、いつでも面会や一緒に外出ができるようにできる限りの支援を行っている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来易いように環境を整えたり、ご本人の希望や家族の意向があれば馴染みの場所にドライブに行くなどしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビングで体操やレクリエーションを行ったり音楽をかけたりして利用者同士が孤立せず関わりをもてるようにしている。食事やソファでくつろいでいる時は入居者同士で会話をしたり、職員が会話の橋渡しを行うなどの支援を行っている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した本人、家族の悩みや相談を聞いたり長期入院の方には時折お見舞いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の希望や思いをケアプランに入れそれに沿ったケアを職員が把握し努めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し一人ひとりのこれまでの生活環境やサービス利用の経過等の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録や申し送りにより一人ひとりの心身状態、一日の生活状況を観察し現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度介護計画の評価を行い必要に応じてプランの見直し等行っている。又急を要する時はその都度スタッフ、家族とモニタリングしケアプランを作成している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個人記録に記入し情報を共有して申し送りや意見交換を行い介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所後併設のデイサービスで週1程度夫婦と一緒に過ごせるように工夫し時間を作っている又他の入居者も気軽に遊びに行けるように支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の介護相談員の訪問を定期的をお願いし入居者の相談等を聞いてもらっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿ったかかりつけ医に受診又は往診をお願いしている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の記録や体温表に目を通し又、本人の顔色や動きを見て異常が無いか観察を行い必要時看護職に相談し適切に受診や看護が受けられるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後入院先の看護師やソーシャルワーカーと連絡を取り情報交換や相談に努めている。面会にも行き情報収集を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に入所者の容態が重度化した場合における対応指針の説明を行い対応出来るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受けたり職員が数名おり急変時の対応も掲示している。初期対応の訓練等は定期的に行ってはいない。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火避難訓練を行い職員が対応出来るようにしている。消防署にも協力していただけるように連絡を取っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を人生の先輩である事を念頭に人格を尊重し言葉掛けやケアに気をつけている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でどちらが良いか希望を聞いたり好きか嫌いかなど自己決定できる場合は本人に選んで頂いている。出来ない人には表情など見て一人ひとり対応している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で一人ひとりの体調やその日の気分を確認しながら希望に沿った暮らしが出来るように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分のお気に入りの洋服や家族が買ってきた服を着て頂き日中は洋服で過ごし夜は寝衣を着用して頂いている。外出時は自分に合ったおしゃれをして出掛けられるように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態を見ながら調理の準備や盛り付けなど一緒に行ったり、配膳や引き膳の手伝いをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のカロリー計算をした食事を提供し食事量、水分量のチェックを行い、水分量の少ない利用者やその時の、健康状態に応じて水分補給をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い一人で上手く出来ない利用者には自分でした後再度確認し必要時介助にて口腔ケア援助をしている。義歯はポリドントにつけ清潔を保っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排尿パターンを把握し声掛けや誘導してトイレにて排泄が出来るように支援している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を軟菜にし食べやすいように工夫したり体操時に参加の声掛けを一緒に運動を行っている。トイレ時腹部のマッサージ等で便秘の予防にも取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に一回の割合で入浴を行い本人の希望に沿えるように考え対応しているが常に希望通りとは行かない。又、失禁などある場合はその都度必要に応じて対応している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせ自由に休息できるようにしている。夜間眠れないときは会話をしたりして安心できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋に目的や副作用が記されているのでカルテに綴り確認できるようにしている。又頓服薬を服用するときは状態変化の確認に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるようにケアプランに反映し役割、楽しみごと、散歩などで気分転換が出来るように支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周りの散歩やドライブに出掛け花見、紅葉狩りや花火、お雛様などを見物に出掛けたり家族といつでも外出できるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事で買い物に出たときは声掛けなど行い自由に買い物ができるようにしている。必要なお金は家族の了解を得てホームで立て替え日常は現金を所持されていない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くことはしないが本人に来た手紙は渡し家族からの電話は本人につなぎ自由に話せるようにしている。希望があればホームの電話を使い掛けている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁に絵や入居者の作成した手工芸作品を飾ったり、季節感のあるものを配置するなどの工夫を行い。施設内の壁の配色等もやわらかな色にしている。採光や喚起にも考慮し空気清浄機の設置も行っている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いて自由に使えるようにしたりコタツを準備して気の合う者同士が楽しく話せるようにしている。一人で過ごせるように居室はいつでも使えるようになっていく。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使っている仏壇や椅子など自由使えるようにしたりタンスの上に飾り物を置いて居心地良く過ごせるようにしている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室には名前を表示し廊下周りを含め手すりを設け安全に歩行できるようにしている。又、居室からホールが見渡せるようにしておりホーム内はバリアフリーになっている。		